

平成29年度 奄美群島世界自然遺産候補地保全・活用事業
利用適正化に関する事業概要

1. 金作原における利用のルールづくりの検討等

(1) 奄美大島利用適正化連絡会議の開催

利用のルールづくりの検討を行うため、国、県、奄美市、関係団体等で構成する奄美大島利用適正化連絡会議（以下「連絡会議」という）を開催。

回数	開催日	内容
第1回	平成29年12月15日	○金作原の利用状況調査等結果について ○金作原の利用適正化実証実験について ○金作原の利用ルールの課題について
第2回	平成30年 1月31日	○金作原の実証実験の実施方法について (利用ルール案、実施体制等について)
第3回	平成30年 3月22日 (予定)	○実証実験の実施結果について ○本格実施に向けた課題について

(2) 実証実験の実施

連絡会議で検討した利用ルール(案)に基づき、平成30年2月16日(金)～22日(木)の期間に実証実験を実施。実証実験において、下記の調査を実施し利用ルール案の検証や本格実施に向けた課題を抽出。

* 実験期間中の利用動態

* 利用者、認定ガイド、予約窓口等へのアンケート・ヒアリング

(3) 実験の検証事項

○利用ルール（車両乗り入れ規制、ガイド同行義務付け、台数・人数の上限設定等）

○ルールの周知と効果

○予約システムの運用

○利用者の評価

2. 林道山クビリ線における利用のルールづくりの検討等

(1) 徳之島利用適正化連絡会議の開催

利用のルールづくりの検討を行うため、国、県、徳之島3町、関係団体等で構成する徳之島利用適正化連絡会議（以下「連絡会議」という）を開催。

回数	開催日	内容
第1回	平成29年12月11日	○徳之島利用適正化連絡会議の設置について ○林道山クビリ線の利用適正化について

(2) 利用適正化の考え方

- ・一定のルール下での持続的な利用が望ましい
- ・制度を運用しながら、継続的に議論し、結果をフィードバックして改善していくことが望ましい（順応的管理）

(3) 議論の内容（ルール素案）

①物理的な制限方法

- ・ゲートに施錠し、鍵は林道管理者で管理する。
- ・許可者に対し林道管理者が鍵を貸し出す。

②規制期間

- ・通年、全日
（夜間のみとした場合、毎日の施錠・解錠や、施錠時の林道内確認が困難）

③規制対象

- ・全て（車両、バイク、自転車、徒歩）

金作原における利用適正化実証実験実施要領

1. 目的

多人数利用等による自然環境への負荷を低減させるとともに、質の高い自然体験の提供を図るため、利用のルール確立に向けた実証実験を実施する。

2. 検証項目

- 乗り入れ自粛要請の効果
- 利用者による評価
- ガイド同士の予約調整
- ルールの周知

3. 実施期間

平成 30 年 2 月 16 日（金）～22 日（木）（7 日間）

4. 実験ルール

※法的強制力はなく、あくまで協力を依頼するかたちで実施する。

① 通行規制

<目的>

- ・アクセス時の安全管理、交通渋滞解消、自然環境への負荷（離合時の踏圧など）低減

<方法>

- 金作原への車両乗り入れの自粛を要請する。
 - 【一般車両】利用の自粛を要請（終日）。
 - 【認定ガイド車両】利用可（事前に利用時間・人数を登録。予約状況を見て、混雑が発生しないよう利用を調整する）。
 - 【貸切バス】利用可（事前に利用時間・人数を登録）。
- 乗り入れの自粛を要請するため、資料 1－2 のとおり、人員及び看板を配置する。人員の配置は 8：30～17：00 とする。

※自粛要請の対象外：奄美大島利用適正化連絡会議事務局構成機関、道路管理者、緊急車両、森林施業又は農作業のための通行等

② ガイド同行

<目的>

- ・自然環境への負荷を低減した適正な利用の推進、自然体験の質の向上（満足度の向上）、安全確保

<方法>

- 金作原利用時には、認定ガイドを利用するよう要請する。

- 車両1台につき認定ガイド1名の同行を必要とする。
- 認定ガイドは、事前に利用時間・人数を登録する。
- 貸切バスは、事前に利用時間・人数を登録する。また、認定ガイド・バスガイドの同行を推奨する。

③ 車両台数・人数の調整

<目的>

- ・自然環境への負荷を低減，自然体験の質の向上（混雑感の解消）
- ・アクセス時やツアー時の安全管理，交通渋滞解消，自然環境への負荷（離合時の踏圧など）低減

<方法>

- 認定ガイド車両は，同時間帯の利用台数を8台以下とする。
- 貸切バスは，同時間帯の利用台数を2台以下（目安）とする。
- 認定ガイド・貸切バスの駐車時間は，1回あたり120分以下を目安とする。
- 認定ガイド・バス事業者は事前に利用時間・人数を受付窓口（あまみ大島観光物産連盟）に登録し，利用予定については，Google カレンダーを活用して，関係者間で共有を図る。
- 認定ガイド・バス事業者は他の事業者の利用予定等を踏まえ，利用の分散に留意した予定の調整を自主的に行う（同時間に入域するガイドが多い場合に入域時刻を前後させる，バスの通行時間に注意して離合のトラブルを避けるなど）。
- 認定ガイド1名あたりの案内人数は，15名以下とする。

5. 実証実験の周知

【観光客】

- ・関係機関ホームページ・SNS
- ・チラシ（レンタカー店舗や航空機等で頒布，観光施設等での掲示）
- ・ラジオ
- ・看板

【住民】

- ・奄美市広報
- ・関係機関ホームページ・SNS
- ・チラシ（公共施設等での掲示）
- ・新聞，ラジオ
- ・看板

【島内観光関係者】

- ・奄美群島観光物産協会，奄美大島観光協会，あまみ大島観光物産連盟，奄美大島商工会議所，奄美自動車連合会等を通じて各会員へ周知

【旅行会社】

- ・文書・電話等で周知

【現場での周知】

- ・実験期間中は現場での誘導やアクセス道路入口等での看板等による周知を実施

6. 効果検証・モニタリング

【実証実験時の利用動態把握】

- ・現地で入込台数等を記録

【利用者による評価】

- ・金作原利用者を対象としたアンケート（認定ガイドから配布・郵送で回収を想定）
- ・事前登録が無く金作原を訪れようとした利用者に対するヒアリング
- ・金作原を利用しなかった観光客へのアンケート

【事業者による評価】

- ・事業者へのヒアリング（バス会社，認定ガイド，旅行会社等）

【予約システムの検証】

- ・受付窓口において予約受付状況を記録し，運用上の改善点等を検討。

【金作原周辺の自然環境】

- ・実証期間前後で状況に変化があった場合，ガイドから事務局に報告。
- ・上記ヒアリングでも聴取を実施。

きん さく ばる

金作原で 利用適正化実証実験を 実施します

～金作原をより楽しむために～

実施期間

平成30年(2018年)

2/16(金)→22(木)

利用適正化実証実験とは？

近年、世界自然遺産推薦地となっている金作原では、来訪者が増加しています。貴重な自然を守るとともに、金作原周辺の交通の安全や混雑防止のために、利用のルール確立に向けた実証実験を実施します。実証実験期間中は、金作原への自家用車等での乗り入れの自粛及び認定ガイド同行による利用をお願いします。皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



利用ルール

- 実証実験期間中は、**自家用車（バイク、原動機付自転車含む）、レンタカー、タクシー、自転車等**による金作原への乗り入れの自粛をお願いします。
- 金作原を利用する際は、**認定ガイド（有料）**をご利用下さい。（認定ガイド及びバス事業者が混雑緩和・安全確保のための予定の調整を行います。）

認定ガイドとは

「奄美群島の自然・文化について深い知識を有し、来訪者に安全で質の高い体験を提供するとともに、地域の環境保全に責任を持つガイド」として、奄美群島エコツーリズム推進協議会が認定したガイドです。

認定ガイドの一覧は、裏面をご覧ください。

実証実験実施機関
奄美大島利用適正化連絡会議

(事務局)
環境省奄美自然保護官事務所、
林野庁鹿児島森林管理署、
鹿児島県環境林務部自然保護課、
奄美市

お問い合わせ
鹿児島県環境林務部自然保護課奄美世界自然遺産登録推進室
TEL：099-286-2759
E-mail：amami-isan@pref.kagoshima.lg.jp
奄美市 TEL：0997-52-1111



奄美群島認定エコツアーガイド（奄美大島）一覧

氏名	所属	TEL	得意としているフィールド・分野					
			森	川・沢・滝	里地	海	生物	民俗・文化
清正 斉	奄美の森散策ガイド	090-3324-9669	●		●		●	●
中村 勝郎	団塊世代の島案内人	0997-63-2533			●			
吉岡 大樹	ユニマーレ	0997-63-0702	●	●	●	●		●
橋口 波太夫	おふいすくう	0997-53-5473	●	●	●		●	●
喜島 浩介	アマミアンツアーガイド	090-4772-5850	●	●	●	●	●	●
島 隆穂	奄美ネイチャーセンター	0997-57-7592			●		●	
木本 勝也	diving service Teeda	0997-62-5311				●		
山下 弘	奄美大島花ガイド	090-9565-4149					●	
才 秀樹	マリンスポーツ奄美	0997-53-1245				●	●	
高 美喜男	奄美ネイチャーセンター	0997-57-7592	●		●		●	
鳥飼 久裕	奄美ネイチャーセンター	0997-57-7592	●				●	
赤塚 賢二	サンゴとヤドカリ	090-9941-6737	●	●		●	●	
西條 和久	観光ネットワーク奄美	0997-54-4991	●	●	●		●	●
水間 忠秀	観光ネットワーク奄美	0997-54-4991	●	●	●		●	●
越間 茂雄	DEEP AMAMI	090-7393-0880	●	●	●	●	●	●
岩田 浩志	Dive Service BLUE GATE	090-9408-5609				●		
伊藤 公昭	マリンスポーツ奄美	0997-53-1245				●		
富岡 紀三	スローガイド奄美	090-7288-5980	●	●	●		●	●
常田 守	ネイチャーライブラリー奄美	090-9599-3079	●	●	●		●	
荒田 政行	アイランドサービス	0997-62-3889	●	●	●	●		
久保 豊	アイランドサービス	080-6421-7802	●	●		●		
城 泰夫	アイランドサービス	090-3601-1996	●	●	●	●	●	●
中田 留弘	奄美ダイビングセンターとめ	0997-63-8686		●	●	●		●
前田 聡	リラックスダイビングサービス	0997-62-4746				●		
辻本 純子	リラックスダイビングサービス	0997-62-4746				●		
平井 隆	奄美愛ネット	090-2504-5456	●	●	●	●	●	●
興 克樹	ティダ企画	090-8914-9801	●			●	●	
國宗 裕一	海風舎	0997-72-4673		●		●		
國宗 弓穂	海風舎	0997-72-4673	●		●		●	●
緒方 加世子	サンゴとヤドカリ	090-9941-6737	●	●	●		●	●
前田 寿子	サンゴとヤドカリ	090-9941-6737	●	●	●		●	●
寿 浩義	マングローブ公社	090-8836-5798	●	●		●	●	
中岡 省吾	マングローブ公社	090-2515-3888	●	●	●	●	●	●
川内 正貴	マングローブ公社	090-5730-0178		●				
加藤 勝輝	マングローブ公社	0997-56-3355		●				
後藤 大樹	マングローブ公社	080-5258-6496		●				
栄 浩樹	マングローブ公社	0997-56-3355		●				
濱地 武之	ダイビング&ペンション RIKI	0997-76-0069				●		
丸野 農	ダイビングショップ ルプラ	0997-62-5880				●		
潤 勇一郎	アイランドサービス	080-8576-2060	●	●		●		●
井村 純平	アイランドサービス	090-2622-1284	●	●		●	●	
寺本 薫子	カケロマドットコム	080-5247-4425			●			●
太田 健二郎	アクアダイブコホロ	0997-72-4969				●	●	
林 文隆	奄美 trekk	0997-58-4985	●			●	●	
荒田 利光	AMAMI NATURE.COM	0997-69-2022	●	●			●	
富永 誠吾	奄美旅ガイドとみなが	090-1625-9703	●	●	●		●	●



金作原利用適正化実証実験 結果速報

1. 実証実験結果の検証について

実証実験の効果（乗り入れ自粛要請の効果，予約の調整，ルールの周知，利用者満足度等）や本格実施に向けた課題を明らかにするため，利用動態や利用者の評価等について調査を行った。

2. 実証実験期間

平成 30 年 2 月 16 日（木）～22 日（金）（7 日間）

3. 現地での人員配置と調査項目等



4. 実験結果

(1) 実証実験期間中における金作原の利用動態

1) 調査方法

- ・実証実験期間中に、知名瀬集落側入口、金作原入口に人員を配置し、車両入込台数（事前登録の有無別の車両数、利用自粛車両数）や利用者数等を把握した。

2) 調査結果

○実験期間中の金作原利用は、認定ガイド車両 34 台、バス 5 台、未登録車 7 台。
○知名瀬集落側入口における利用自粛依頼車両数は 15 台。うち、利用自粛車両は 8 台。

【金作原利用】

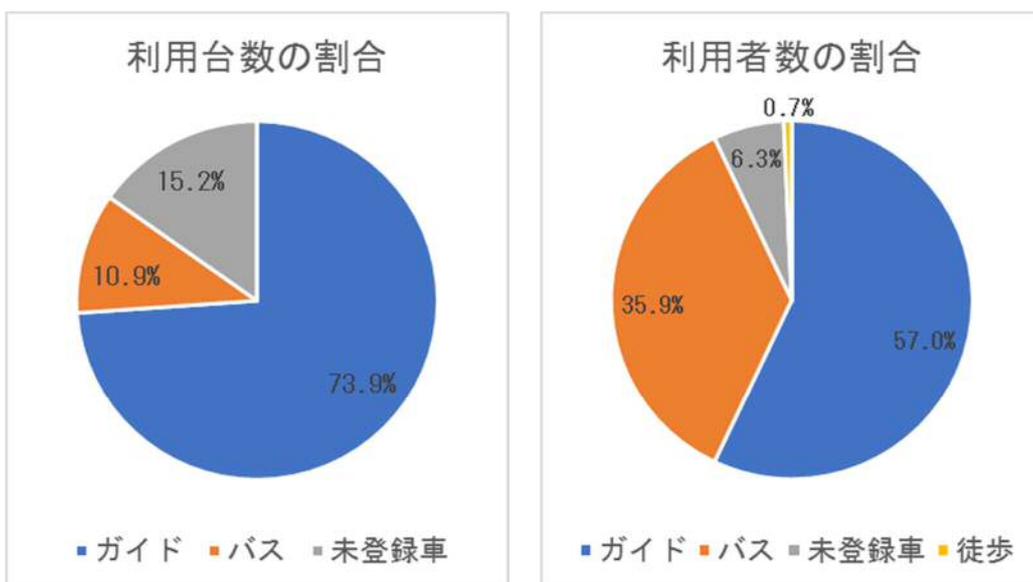
区分		台数	人数 ^{※1}	1台あたり人数 ^{※1}
事前登録	認定ガイド	34	162	4.8
	バス	5	102	20.4
未登録	知名瀬から入林 （自粛を依頼）	5	16	3.2
	別経路や調査時間 外の入林 （自粛依頼無し）	2	2	1.0
自粛要請対象外		—	2	—
他・不明		3	—	—

※1：利用人数には、認定ガイド、バス運転手、バスガイドは含まない。

【知名瀬集落側入口】

区分	台数
利用自粛依頼車両	15
そのまま利用（金作原に向かう）	7 ^{※2}
利用を自粛（金作原に向かわず引き返す）	8

※2：うち、2台が道路状況等をみて金作原の手前で引き返す。



■参考：他の期間の利用状況

①平成 29 年 GW 期間

(4月29日(土)～5月7日(日)の9日間：調査時間47時間)

	台数	人数	1台当たり 平均乗車人数
ガイドツアー	65	426	6.55
レンタカー	21	50	2.38
地元住民	21	51	2.43
その他	9	17	
合計	116	544	4.69

②平成 29 年新盆期間

(8月11日(金)～16日(水)の6日間：調査時間45時間)

	台数	人数	1台当たり 平均乗車人数
ガイドツアー	47	355	7.55
レンタカー	2	5	2.50
地元住民	0	0	
その他	1	1	
合計	50	361	7.22

※この期間は台風による土砂崩れの影響で、金作原に至る林道知名瀬線が通行止めとなり、
ほぼガイドツアーのみの利用となった。